

水土里ネット ながの情報

2021
No. 10
夏号

長野県土地改良事業団体連合会
土地改良のしるべ



CONTENTS

- 藤原会長 旭日重光章受章
- 令和3年度臨時総会
- 県及び県議会への要望行動
- 特集 八重原土地改良区
- 特集 第62回全国土地改良功労者表彰
受賞地区の紹介 川田土地改良区
- ため池サポートセンター始動
- 長野県からのお知らせ
- 令和4年度新規採用職員募集
- 人事異動

令和3年 春の叙勲 藤原会長が旭日重光章を受章

本会の藤原忠彦会長（元川上村長・元全国町村会長）が、令和3年春の叙勲において旭日重光章を受賞された。



藤原会長

昭和63年から川上村長を8期32年にわたって務め、かつて「寒村」だったという村内で、村職員時代から農業基盤整備事業など産業につながる事業を数多く手がけられた。また、この間に、長野県町村会長、全国町村会長など数々の要職を歴任された。

長野県土地改良事業団体連合会においては、平成8年3月から現在に至るまで長野県土地改良事業団体連合会の役員を務め、この間、理事、副会長を歴任し、平成29年1月からは会長として、会務の円滑な運営に尽力するとともに、土地改良区等会員への技術援助、人材育成を通じ本県の農業農村整備及び農山村の発展に尽力されている。

とりわけ、令和元年東日本台風災害においては、本連合会において2,482箇所に及ぶ災害復旧業務を受託し、農地及び農業用施設の早期復旧及び早期営農再開に向けて陣頭指揮を執られた。災害査定支援のために行う現地調査においてはドローン（無人航空機）を活用した調査の積極的な導入を指示し、正確な状況把握、調査の効率化、迅速化に努めたほか、政府与党県選出国会議員や土地改良関係国会議員に対し、早期復旧・復興に向けた支援の緊急要請を行うなど精力的に活動された。

令和2年度決算等の承認

令和3年度臨時総会

本会は、8月3日、長野市の土地改良会館で、令和3年度臨時総会を開催した。

はじめに藤原会長があいさつし「本会は県からの要請により、ため池の防災対策推進を目的とした『ため池サポートセンター』を設置した。既に、現地調査を始め、会員の皆様からのご意見・ご要望も多数いただいている。皆様からのご要望に応えながら、ため池管理の支援に取り組む。また、本会が今後も継続して質の高い技術支援を行っていくためには、農業農村工学技術者の確保が必要であることから、県と協力して技術職員の確保・育成に向けた取り組みを進めたい」と述べた。

当日は、県農政部の小林農政部長、飯島参事兼農地整備課長が来賓として出席いただいた。

提出された議案は、令和2年度事業報告書、貸借対照表、収支決算書及び財産目録の承認について、令和3年度収入支出補正予算（第1号）（案）議決について、役員の補欠選任についての3議案でいずれも原案どおり満場一致で可決された。



あいさつする藤原会長

役員の補欠選任

小田切理事が新たに就任

令和3年度臨時総会で退任に伴う役員の補欠選任が行われ、本会の定款に基づき選出された各支部1名の選衡委員が協議し、宮田村長の小田切康彦氏を理事候補として総会に諮り、満場一致で承認された。任期は令和3年8月3日から、現任役員の任期である令和5年3月31日をもって満了とする。



新たに就任された小田切理事

第63回通常総会の決議事項について県および 県議会議員に要望行動を実施



要望の様子



回答を述べる阿部知事



左から白鳥専務、牛越副会長、清水副議長、
宮本議長、藤原会長、羽田副会長、所常務

本会は5月28日、県への要望行動を実施した。

藤原会長、牛越副会長、羽田副会長、白鳥専務理事、所常務理事の5名が出席し、阿部知事、小林農政部長、飯島参事兼農地整備課長、小林農業技術課長に要望書を提出した。

はじめに藤原会長が「県の農業農村整備予算については地域の要望に応える予算を確保していただき感謝申し上げる。また、団体営防災減災事業の県補助率を大幅に引き上げるなど、頻発する自然災害への対策事業推進にご尽力いただき心より御礼申し上げる。本会としては、今後とも県と連携して農業農村の復興を図るため事業推進に努めてまいりたい」と述べた。

その後、安定的かつ計画的な事業の推進が可能のように、地域の要望を満たす予算を確保するための国への働きかけをはじめとする要望書の内容3項目について説明を行った。

阿部知事より「予算についてはコロナ対策等で厳しい状況ではあるが防災減災対策は非常に重要な事業であるため必要な事業を推進するための予算を編成すると共に、国にも要求をしてまいりたい」との回答をいただいた。また、小林農政部長が3つの項目について県の現状と今後の対応について説明され、本会と連携していきたいと述べられた。

引き続き県議会に出向き、宮本議長、清水副議長に陳情書を提出了。

宮本議長より「陳情いただいた3項目につきましてはいずれも重要な課題であり、県議会でも所管の委員会で十分な審議をして対応していきたい」との回答をいただいた。

3つの要望項目

1. 令和4年度の県における農業農村整備事業において、地域の要望を満たす予算を確保すること。
2. 県に農地防災を推進する部署を新設し、流域治水や農業用ため池の安全確保を始めとする防災・減災対策を更に推進すること。
3. 長野県農業大学校に農業農村工学科を新設するなど、農業農村工学技術者の育成・確保の取り組みを行うこと。

特集

八重原用水を後世に 紹介映像を改良区と 「八重原用水の歴史と維持を学ぶ会」が作成

八重原用水は蓼科山麓の大滝源水を水源とし、東御市の八重原台地と呼ばれる広大な土地を潤します。八重原用水は今から約350年前の1662年に小諸城主青山氏の家臣、黒澤喜兵衛により10年の歳月と10万もの人員を費やし開削され、降水量の少ない八重原台地は八重原用水の完成により大きく発展しました。

そんな八重原用水の歴史や現在を地元の小学生に紹介する映像を八重原土地改良区と「八重原用水の歴史と維持を学ぶ会」が作成しました。活動について東御市八重原土地改良区の岩下理事長にお話を伺いました。



「八重原用水の歴史と維持を学ぶ会」の活動

平成23年度に、歴史ある八重原用水を守り、語り繋いでいくために、改良区の役員や八重原用水関係者25名で前身にあたる「八重原用水の歴史を学ぶ会」を発足しました。

平成27年度には県の支援により「八重原用水ガイドマップ」「八重原用水路古地図帖」を作成して、北御牧小学校に配布を行いました。あわせて同小学校では社会科の授業で4年生を対象に「黒澤喜兵衛と八重原用水」の学習を開始し、ガイドマップに載っている八重原用水の見学学習を毎年行っています。改良区役員や学ぶ会会員など地元の方と見学の講師を務め、見学後には用水づくりや維持についての講演も行っています。

令和2年度には黒澤喜兵衛と八重原用水の完成までの歴史をつづった書籍「黒澤喜兵衛物語（平成28年度刊行）」を小学生にも分かりやすく漫画化し配布を行うなど、東御市八重原用水を多くの人に知ってもらう活動を積極的に行ってきました。



「～八重原用水の歴史を学ぶ～」映像作成

映像では八重原台地の概要や黒澤喜兵衛が八重原用水を完成させる経緯を、資料やドローンの空撮を利用して小学生向けに分かりやすく紹介しました。その他にも現在の用水施設の泥上げや草刈りといった施設の維持管理、八重原のブランド米「八重原米」の田植えの様子などを紹介し、維持活動や水資源の重要性を伝える内容となっています。



今後の活動について

毎回ガイドマップなどの資料を作成するたび多くの反応をいただきます。刊行からしばらくたった後も新しく引っ越してきた非農家の方や県外の方からも用水見学や公演の依頼があり、多くの方々に興味を持っていたいだけていることを嬉しく思います。

現在黒澤喜兵衛や八重原用水の歴史について知る人は地元の方でもごく一部です。後世に残すための小学校との取り組みも今年で7年目になりますが、今後もこういった活動を通じて、子ども以外にも多くの方に興味を持って八重原用水について知っていただけるよう活動していきたいと考えています。



岩下理事長（撮影：明神池）



これまでに作成した資料



見学児童の講師を務める岩下理事長（DVDより）

DVDブルーレイ 八重原用水の歴史を学ぶ

¥1,000(税込) 販売中

お問い合わせ先

北御牧公民館（旧北御牧支所）

Tell 0268-67-3311

または

東御市八重原土地改良区

〒389-0406 東御市八重原1683番地

Tell 0268-67-3133

Mail yaeharatochi@dia.janis.or.jp

特集

第62回全国土地改良功労者表彰受賞地区の紹介

全土連会長表彰 川田土地改良区

川田土地改良区の受益地は長野市の南東を流れる千曲川・犀川の合流地点右岸に位置し、平坦地では水稻を、傾斜地では果樹を中心に栽培している農業地帯です

令和2年度第62回全国土地改良功労者表彰で「全土連会長表彰」を受賞した川田土地改良区の和田理事長に土地改良区の今後の展望や課題についてお話を伺いました。



和田理事長(右)と北城会計理事(左)



これまでに取り組んできた主な事業

地区内を流れる用水源の一級河川、保科川・赤野田川は、水源が限られ困難な農業経営を余儀なくされていましたが、昭和28年度より県営鉱害復旧対策特別事業にて水源を地下水に求めたことで水利状況が改善されました。昭和30年度から昭和59年度にかけて、団体営耕地整理事業・団体営圃場整備事業・小規模排水対策特別事業で地区内約232haの区画整理事業を実施し、昭和52年度より各種補助事業にて地区内の水路整備事業を実施しました。また平成8年度から平成28年度にかけては、団体営かんがい排水事業、地域ストックマネジメント事業、農業基盤整備事業を導入して地区内の揚水設備を整備し一層の農業経営安定を目指しています。

長原地区の果樹地帯では、干ばつのため悲願であった畑かん施設を、昭和59年度から平成元年度にかけて団体営土地改良総合整備事業にて整備し、農業の近代化を推進してきました。現在、平成30年度から令和4年度までの計画で、県営畠地帯総合土地改良事業を実施しており、担い手農家への農地集積、シャインマスカットを始めとした高品質な果樹の生産など競争力強化に力を入れています。



寺前地区から望む川田地区



ぶどう畠の散水設備(長原地区)



施設の維持管理

現在受益地内10か所の揚水機場を役員5名、地区委員15名からなる用排水調整委員会で運営管理しています。ポンプ機場の管理、畠かん散水スプリンクラーの清掃といった軽微な管理に関しては地区委員が、補修工事を伴う技術的な維持管理については土地改良区の事務局が分担して行っています。



本土地改良区の特徴

● 多面的機能支払交付金事業の活動組織との連携

本土地改良区の受益地では多面的機能支払交付金制度が始まった平成26年度から、農地周りの堰の管理を行っていた本改良区の地区委員を始めとした農家と地域住民が一体となって「川田農業施設維持修繕協議会」が立ち上げられ、水路の泥上げや草刈り、水門ゲートの更新などに取り組んでいます。

水路の管理については、幹線水路を管理する土地改良区と支線を管理する活動組織が連携し、地域の要望を広く汲み取りながら上流から下流までの一貫した維持管理を行っています。

また川田土地改良区と協議会で連携して、次世代を担う子どもたちに農業に興味を持ってもらうため、地元の川田小学校5年生を対象に餅米の作付けから収穫までの指導をする「川田小学校米づくり教室」や、水の大切さについて知ってもらうため、水田の水はどこからくるのかを実際に水路や揚水機場を見学しながら学んでもらう機会を設けています。

その他にも改良区の組合員がつくる「川田宿を考える会」ではJA祭り等イベント参加、酒米や古代米の作付けによる遊休農地の解消といった世代間交流や地域伝統文化の継承活動が行われ、平成26年度には「農業農村整備事業広報大賞優秀賞」を受賞するなど地域一体となって農業の活性化に取り組んできました。



今後の展望や課題

この地域は地下水を水源としているため、多少の干ばつでも影響を受けにくいですが、揚水機場や水路等の管理が大変でコストもかかります。貴重な資源である農業用水を有効に活用するためには農業水利施設の適切な維持管理が必要不可欠なため、土地改良区の役割はより一層重要になります。このことを代替わりした組合員の方、地域の方にもっと知っていたいだけるよう更なる啓発活動に取り組んでいく必要があると考えています。



更新された水門ゲート



春の堰堀



川田小学校米づくり教室

川田土地改良区

- ・所在地 長野県長野市若穂川田3285-1
グリーン長野農協若穂支所内
- ・関係市町村 長野市
- ・設立年月日 昭和29年12月13日
- ・受益面積 190ha
- ・組合員 663人

ため池サポートセンター 始動！

◆本連合会では、農業用ため池の適正な管理と保全を図るため、ため池管理者や市町村に対し技術的な指導、助言等の支援を行う「ため池サポートセンター」を令和3年4月に開設しました。

農業用ため池は、農業用水を供給する施設としての役割の他にも、洪水調節などの防災機能、環境及び生態系保全機能、農村の景観資源といった様々な機能を持ち重要な役割を果たしてきました。一方で近年、豪雨や地震によりため池が被災するなど、災害リスクの高まりや、その多くが古くに築造され老朽化の進行といった問題が深刻化しています。

このような状況を背景に、ため池サポートセンターでは「ため池監視・管理体制強化研修会」を5月に県内6会場で県と共に開催したほか、現在防災重点農業用ため池のパトロールを実施しています。

そのほか、ため池管理者や市町村からの相談を随時受け付けており、今後も県と情報共有や連携を図りながらため池の管理と保全に関するサポートを行っていきます。



農業用ため池（中野市：屋地谷池）

ため池パトロール～ため池の安全性を現地で診断～

ため池パトロールでは、防災重点農業用ため池の劣化状況の評価およびその後の経過観察を行います。

現地で実際にため池を管理する地元や市町村の担当者に管理体制や受益地の様子などについて聞き取り調査を行い、堤体（ため池の水を堰き止める部分）、取水施設（農業用水を取り入れる施設）、洪水吐（大雨の時に水が溢れないように水を流すための放流設備）、周辺の状況等について老朽化や損傷の状態のチェックを行い、改修の必要性や緊急性を診断します。

また、パトロールの結果をため池管理者及び市町村に報告し、今後の対応についても相談に乗るなど、総合的にため池管理をサポートします。



ため池パトロールの様子



洪水吐の状態を診断

ため池管理者の
皆さんからの相談を
受け付けます

毎週 月～金 曜日

※祝日の場合、年末年始（12/28～1/4）は除きます

午前8時30分から12時まで / 午後1時から5時まで

電話 026-237-7045 内線333

長野県からのお知らせ

棚田の保全活動を推進するために

『(株)八十二銀行』と『稲倉の棚田地域振興協議会』、『千曲市棚田保全推進会議』が「棚田パートナーシップ協定」を締結しました

棚田は、地域の先人たちが自然と寄り添い、連綿と築き上げてきた「信州の原風景」であり、今多くの人たちに潤いと安らぎを与えてくれます。

大切な棚田を守り次代に引き継ぐため、県では企業や学校といった多様な組織と棚田保全団体が連携・協力する体制づくりに取り組んでいます。

この度、令和3年5月27日に『(株)八十二銀行』と『稲倉の棚田地域振興協議会』並びに姨捨棚田を保全する『千曲市棚田保全推進会議』が、阿部知事の立会いのもと、県内2件目となる「棚田パートナーシップ協定」を締結しました。



県庁で開催された協定締結式での記念撮影（左から姨捨棚田 佐藤会長、(株)八十二銀行 湯本頭取、稲倉の棚田 久保田会長、阿部知事）

【(株)八十二銀行】 — 稲倉の棚田、姨捨棚田

- ➡ 八十二銀行の創立90周年記念事業の一環として、県内の棚田支援に取り組む
- ➡ 八十二銀行では、優れた自然環境や景観の恩恵を受ける産業・事業者が多い当県において、「棚田は貴重な財産」と強く認識
- ➡ 棚田保全団体への資金援助を行うとともに、行員とそのご家族が田植、稻刈りなどの保全活動に参加
- ➡ 保全活動を通じて、棚田の魅力や価値について広報等により情報発信

信州棚田
ネットワーク



「稲倉の棚田」に八十二銀行のオーナー田を示す木杭を設置



「稲倉の棚田」で田植に汗を流す行員とご家族の皆様。各支店同士の交流にも繋がります



善光寺平を眼下に望む「姨捨棚田」での田植の一コマ

『信州棚田ネットワーク』では、棚田保全に一緒に取り組み、活動を盛り上げてくださる会員・パートナーの皆様を随時募集しています。各地の棚田イベント情報等も発信していますのでご覧ください。



信州棚田ネットワーク パートナーシップ



<https://shinshu-tanada.jp/>

内容についてのお問い合わせ先

農政部 農地整備課 農地・水保全係

☎ 026-235-7241（直通）

令和4年度新規採用職員追加募集

長野県土地改良事業団体連合会では 新規職員を募集しています



採用職種

総合土木技術職員

採用予定人数

若干名

業務内容

国、県、市町村、土地改良区等の農業用施設や農地の改良、開発に係る土地改良事業及び災害復旧事業の調査、設計、計画業務



勤務地

本部事務局

各事業所及び各支所（県合同庁舎内）

受験資格

1. 新卒者（卒業後3年未満の既卒者も含む）

平成4年4月2日から平成16年4月1日までに生まれた者で、高等学校以上の農業土木工学等の課程を卒業した者。（令和4年3月卒業見込みの者を含む。）

2. 既卒者（就業経験があり、卒業後3年以上の者）

昭和61年4月2日から平成12年4月1日までに生まれた者で、土木の調査、設計業務に従事した経験があり、高等学校以上の農業土木工学系（農業土木、土木、測量、環境工学、都市環境等）の課程を卒業した、最終学歴の卒業後3年以上の者。

採用の流れ

- 申込期間 令和3年7月21日（水）から令和3年10月1日（金）
※郵送の場合は10月1日（金）までの消印のあるものに限ります
- 第1次試験 令和3年10月10日（日）
- 第2次試験 10月下旬
- 第3次試験 11月上旬
- 採用時期 令和4年4月1日

提出書類

- 申込書（連合会HPからダウンロード可能）
- 履歴書（市販用紙、本人自筆）
- 卒業証明書又は卒業見込み証明書
- 成績証明書
- 返信用封筒
(94円切手を貼り、受験票を受け取るあて先を明記してください)



申し込み先

〒380-0838

長野市大字南長野字宮東452番地の1

長野県土地改良会館

長野県土地改良事業団体連合会 本部事務局 総務企画課

電話 (026) 233-4281

詳しくは連合会のホームページからご覧ください。

水土里ネットながの

検索

水土里ネットながの - 長野県土地改良事業団体連合会 (<http://nag-doren.or.jp>)

◎人事異動(農林水産省)

農林水産省農村振興局

(7月1日付)

*幹部のみ掲載

農村政策部	農村振興局次長（農村振興局整備部長）	安部 伸治
地域振興課	課長（農村振興局農村政策部都市農村交流課農泊推進室長）	富田 晋司
鳥獣対策・農村環境課	課長（生産局総務課付）	藤河 正英
都市農村交流課	農泊推進室長（農村振興局整備部設計課付）	米田 太一
整備部	整備部長（農村振興局整備部設計課長）	川合 規史
設計課	課長（農村振興局整備部防災課長）	青山 健治
土地改良企画課	課長（水産庁資源管理部国際課長）	山里 直志
水資源課	課長（農村振興局整備部付）	緒方 和之
	施設保全管理室長（大臣官房地方課災害総合対策室長兼食料産業局食品製造課付）	影山 義人
地域整備課	課長（農村振興局整備部設計課付）	香山 泰久
防災課	課長（農村振興局整備部水資源課施設保全管理室長）	細井 和夫

農林水産省農村振興局 退職

(7月1日付)

農村振興局次長

奥田 透

農林水産省関東農政局

(7月1日付)

*幹部のみ掲載

関東農政局次長（復興庁統括官付参事官）

野原 弘彦

農林水産省関東農政局 退職

(7月1日付)

関東農政局次長

田中 龍太

◎人事異動(長野県土地改良事業団体連合会)

長野県土地改良事業団体連合会

(7月1日付)

南信事業所	技術係技師（本部事務局事業課技術係技師）	田中 瑞
中信事業所	技術係技師（本部事務局事業課技術係技師）	船坂みづき
北信事業所	技術係技師（本部事務局事業課技術係技師）	堤 渚太朗

長野県土地改良事業団体連合会 退職

(6月30日付)

北信事業所技術係技師

久保田宏輝

表紙写真紹介

滝之湯堰（茅野市北山～豊原）

田沢村（現茅野市宮川）の名主であった坂本養川が、高島藩へ献策したことにより開削された最初の水路です。「芝湛（しばだたえ）」と呼ばれる取水方法は、河川を木・枝葉・石で堰き止めて取水する構造で、河川下流にも水を流すことを前提としています。堰筋は、洪水の影響を受けにくい硬い岩盤を探し、くり抜いて水を引き込むなどの工夫がされています。

文：信州の農業遺産魅力ガイドより（長野県 農政部 農地整備課 発行）



ながの
土地改良のしるべ

発行：令和3年8月20日（年4回発行）

発行所：長野県土地改良事業団体連合会

〒380-0838 長野市大字南長野字宮東452番地の1

TEL026-233-4281 <http://www.nag-doren.or.jp>

土地改良のしるべ編集人：白鳥 公晴